最優秀賞（国土交通大臣賞）
（作文の部　中学生）

『生きていることに感謝』

【鹿児島県】出水市立米ノ津中学校
一年生　山　﨑　　聖　南

１９９６年12月15日。身長、50センチ、体重、2800グラムの元気な子が産まれました。その子の名前は山﨑聖南、私です。
私が産まれて、約半年がたった夏、7月10日に、私たちが住んでいる出水市針原で、土石流災害が起きました。夜中に起こった災害だったため、私たち家族を含め、みんなその頃寝ていました。

そのとき土石流で流された方々のなかには、自分の命を守るために、近くに浮いているベットや、たたみなどにつかまって、水の中からはい上がって助かった方もいます。そして、同じ家の中に寝ていても、寝ている場所、部屋によって、助かった人、助からなかった方がいたそうです。自分のとなりで子供が寝ていて、自分は助かったが、その子は助からなかったということまであったそうです。私はこのことを父、母に聞いたとき、自分の子供を亡くしてしまった方、家族の方を亡くしてしまった方がかわいそうでたまりませんでした。

その土石流災害のことは、新聞の記事にものりました。この土石流災害で落ちてきた石の大きさは私の家の大きさほどのものであったと教わりました。この土石流災害での死者は21名と聞き、なんてたくさんの方が亡くなったのだと思いました。

針原には、この災害で亡くなった方のための慰霊碑公園があります。そこには、石碑があり、私の父が書いた短歌がほってあります。
「針原の　みかんの里に　ふたたびの　花を咲かすと　みな誓いけり。」
という歌です。13年たった今、針原には本当にみかんの花がきれいに咲いています。この歌を書いた父やみんなの願いがしっかり神様に届いたのだろうと思います。

私はこの前、祖父と一緒に、慰霊碑公園に行ってみたとき、石碑に刻まれている亡くなった方の名前を見ていました。すると、一人の男の子の名前がありました。そしてその子の年齢は0才。私が0才のときに起こった災害なので、もし、その子が今生きていたら私と同い年の中学一年生だと思いました。

私は、慰霊碑公園に、お参りに行ったことが何度もあります。その時、私がいつも思うことは、もし、土石流災害がなくて、この方々が今でも生きているのであれば、どんな生活をしているのだろう、どんな方になっているのだろう、ということです。もしも、その赤ちゃんが生きていたら同じ中学校で、友達になっていたのだろうかなどと私は思います。

私の家族は、祖父も、祖母も、父も、母も姉も私も全員が今でも生きています。私のこれまでの13年間の中で、祖父がすごいなと思ったことがたくさんあります。その中で一番すごいなと思ったことは、土石流災害のときに、他の方の命を救ったということです。だれかに命を救われた方、自分でしっかり命を守った方、今でも生きていらっしゃる方には、亡くなった方の分まで、命を大切にして、これからも長く生きてもらいたいと、あらためて思います。

毎年、7月10日には、慰霊碑公園で、慰霊碑祭があります。その式では、お花を供えたり、お線香を上げたりして、お墓参りに似ています。でも私は、中学生なので、その式の日は学校があり、小さい頃にしかその式に参加したことはありません。でも、大人になったら、7月10日には毎年しっかり参加して、お花を供えたいと思っています。

この土石流災害が起こったとき、出水市針原の自治会長さんをやっていた古川守さんは、今年、病気のため亡くなってしまいました。古川さんは、土石流災害のときに、自分の家も被害を受けながら、亡くなった方や被害を受けた方々のためにがんばられ、復こうに全力を尽くされた方です。私はこの話を新聞の切りぬきを見たり、祖父などに聞いて、古川さんは、自治会のためにがんばっていたんだなと思いました。古川さんやみんなのがんばりや協力があって、針原はもとのように復こうできたのだと思います。

私は、今生きていられることを心からありがたいと思います。まずは、私を産んでくれた母に感謝し、私を13年間ここまで大きく育ててくれた祖父、祖母、父、母、家族に感謝しています。そして、これからもその感謝の心を忘れずに生きていこうと思います。お父さん、お母さん、家族のみんな、私が大人になってもずっと私を見守っていて下さい。

私はこれからも亡くなった方の分まで精一杯生きていきます。